

消化器・肝臓センター

NEW 一す NO. 20

2017.2

超音波内視鏡って何？

超音波内視鏡とは、文字通り超音波（エコー）装置をともなった内視鏡で、消化管（食道、胃、十二指腸など）の中から超音波検査を行います。体表からのエコー検査と異なり、胃や腸の中の空気や腹壁・腹腔の脂肪・骨が、エコーをとらえて画像にする際に妨げになることもなく、観察目的の近くから5～30MHzという比較的高い周波数の超音波により高い分解能の超音波観察をすることが可能です。超音波内視鏡検査は、消化管（食道、胃、十二指腸、大腸）における粘膜下腫瘍といわれる病変やがんに対して行います。実際の検査法ですが、通常の内視鏡検査とほぼ同じです。内視鏡を病変の近くまで進めた後、消化管の中に水を貯めて超音波のプローブをあてる方法と、内視鏡先端に装着したバルーン内に一時的に水を貯めて観察を行う方法があります。

超音波内視鏡をご存知ですか？

超音波内視鏡 画像



超音波内視鏡 スコープ全景



何が 見えるの？

超音波内視鏡では、通常の内視鏡では見ることのできない組織の内部を観察することができます。食道、胃、大腸の粘膜の層構造を見ることができるので潰瘍や癌などの病巣がどのくらい深くまで及んでいるか（深達度）や、表面には見えない粘膜下の腫瘍などを調べることができます。

また、超音波内視鏡は病巣の深達度診断の他、直接内視鏡で観察することが困難な部位（膵臓、胆嚢、胆道）の精密検査としても行われます。

胃や大腸など消化管の病変は内視鏡画像を見ながら超音波端子を操作しますが、消化管外にある膵臓、胆道などの臓器は直接内視鏡で見ることができないため、超音波画像を見ながら内視鏡の操作を行います。描出された画像が膵臓、胆道のどの部分であるかを、周囲の臓器や血管などを参考にして同定、確認を行います。

超音波内視鏡 先端部



細胞の 採取も できるの？

病理検査のために、超音波内視鏡ガイド下穿刺（Fine needle aspiration : FNA）といって、超音波で粘膜下の状況を確認しながら細胞を採取することも可能であり、通常超音波検査では採取困難な部位からの組織も取ることができます。本手技は平成22年4月より保険適応となった最先端の内視鏡検査です。膵臓や胆嚢、胆管の病変に限らず、腹腔内腫瘍、リンパ節、腹水、縦隔内の病変に対して内視鏡的に細胞、組織を採取することが可能な画期的な診断法です。具体的には食道、胃、十二指腸などから超音波内視鏡で病変を観察し、介在する血管などがいないことを確認して穿刺し検体を採取します。

当院では超音波内視鏡検査が必要な患者様がいらっしゃれば積極的に検査を行っております。何かお困りの際にはお気軽に当科へご相談ください。



KAZUKA

市立貝塚病院
TEL : 072-422-5865

消化器内科
木村 晋也